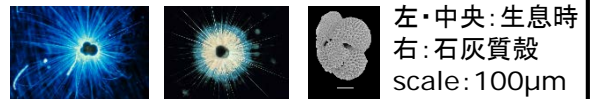




スタートアップ研究費利用内容について 学術資源研究公開センター・黒柳あずみ

・研究内容紹介

地球環境は現在まで、温暖化と寒冷化を繰り返してきたため、地球環境変遷の詳細な解明がこれからの気候変動を考える上で一つの鍵になる。研究対象とする浮遊性有孔虫は、ジュラ紀に出現以降、気候変化の影響を受けやすい海洋表層に生息し、生息当時の環境を殻に記録するため、化石記録から当時の海洋環境変遷を解析する有効な指標とされている。浮遊性有孔虫を用いて過去の様々な海洋環境パラメータをできるだけ精密に復元するためには、どのようにしたらよいか、という意識を常に持ちつつ、過去の環境変遷を読み解き、さらに将来の地球環境の予測を明らかにする事を最終的な目標としている。現在は温暖化に付随する成層強化に伴う海洋貧酸素化の影響について、飼育結果を基に検証し、将来の地球環境変動予測や白亜紀の無酸素事変への応用を目指している。



左・中央:生息時
右:石灰質殻
scale:100μm

・研究費の使途

本研究費は、有孔虫研究に必須な基盤となる器材(個人用双眼実体顕微鏡、微化石保存用スライドなど)購入に使用した。実体顕微鏡は、学生用の共用のものが備えてあるが、微化石研究分野にとってはいわば個人パソコンと同等以上に必要不可欠なものであるため、大変助かりました。



飼育実験室
(米・Catalina)

・自己紹介

静岡県(富士山県)清水出身。お茶とミカンが好きです。現生の浮遊性有孔虫で好きな種は*Globigerinita glutinata*。



飼育瓶中の浮遊性有孔虫(丸中)。
外洋にてダイビングで採取後、飼育。

・本制度を利用することにより可能となった学会・論文発表、受賞歴

<学会発表>

- ・ 黒柳ほか, 日本古生物学会, 2017年6月25日(口頭)。
- ・ 黒柳ほか, 地球環境史学会, 2017年11月27日(口頭)。
- ・ Kuroyanagi et al., AGU Fall meeting, 2017年12月(ポスター)

<外部資金獲得> 住友財団 環境研究助成(H27~H28, 代表者)

・本制度を利用することにより得られた効果

当初は、赴任直後で、予算的にかなり厳しいため個人用実体顕微鏡等は諦めていたが、本制度の支援で購入できたことにより、学生指導や自分の研究効率が大幅に上昇し、自分や学生の学会発表や論文発表などの研究成果につながった。またこれらの研究結果を基に、昨年度後半からの外部資金の獲得にもつなげることができました。ここに感謝いたします。